

項	育てたい子供の姿	重点目標(努力目標)	具体的な取組	取組状況・成果・課題	自己評価(4点満点)	学校関係者からいただいた評価・意見等
心豊かにたくましく神戸の子供を育てる	根気ある子	基礎学力の定着を図る	学習タイムの進め方や検証改善計画の定期的な見直しをした。	学習タイムの進め方や検証改善計画の定期的な見直しをした。	3.5	・基礎学力の定着を毎日の学習タイムを利用して進めている。来年度も同様に学習タイムを利用して、基礎学力の時間として、授業時数として捉える。 ・“基礎学力の定着”は、営業でも使うPDCAと一緒に、予習・授業・問題解決(テスト)・復習が不可欠であり、基礎学力の定着事能が児童一人一人の個性(人間性)を育むと思っておりますので、重点課題でお願いしたい。
		達成感のある活動の推進	学校行事を立案するにあたって、子供たちが達成感を持つよう活動の内容を工夫した。	学校行事を立案するにあたって、子供たちが達成感を持つよう活動の内容を工夫した。	3.1	・学年によって実行委員会制を利用して、児童の考えのもと行事を構築していく。最初から作り上げることで、達成感を存分に味わえることができるが、準備や根回しなどを綿密に行わなくてはならないと感じる。 ・一人一人の児童に合った目標を意識させてあげれば、今後の人生に役立つと感じる。
		もくもく掃除の推進	週目標に取り入れ、すべて学級で統一した指導を確認した。	週目標に取り入れ、すべて学級で統一した指導を確認した。	4.0	・児童だけでなく、教職員も同じようにもくもく清掃を行うことで、よい雰囲気で行うことができている。児童同士の気づきも生まれ、より良い効果を生んでいる。 ・一生涯懸命清掃に取り組んでいる姿勢は、気持ちが良い。評価できる。
	やさしい子	認め合い支え合う集団作り	ペア学年活動を通して、相手を思いやる心をはぐくんだ。	ペア学年活動を通して、相手を思いやる心をはぐくんだ。	4.0	・集団生活の中で、他学年との交流は子どもの成長に必要なことと思います。毎週行われる児童集会にペア学年活動を取り入れることで相手を思いやる心がさらに育まれていると思います。 ・この相手を思いやるやさしい気持ちを育む活動は、引き続き継続したい。
		安心できる仲間づくり	子供が安心して発言できるように、授業を工夫し、学級づくりを進めた。	子供が安心して発言できるように、授業を工夫し、学級づくりを進めた。	3	・宮川よいこのくらしをもとに、学習環境づくりを進めていく。内容は精査し、変えていくことも必要である。今後も安心してできる仲間づくりを構築していくため、運営協議会等、教員以外からの大人の意見を求めたい。 ・単学級が進む中、重要な課題となるため、先生の経験値の差で変わらないよう願います。
		仲間とのかわり活動推進	授業や校外学習などでグループ活動などを取り入れてお互いに協力する場面を設定し、経験をさせている。	授業や校外学習などでグループ活動などを取り入れてお互いに協力する場面を設定し、経験をさせている。	3	・校内の研修で授業づくりを研究し、効果的に評価ができる授業を構築していった。授業で児童を伸ばしていけるような、さらに良い授業づくり(いわゆる授業のプロ)を目指し、宮川つ子に合った学習に取り組めるようにしていく。 ・高学年になるにつれて、この経験を多くさせたい。
	元気な子	明るい学校生活推進	子供達が楽しんで学校生活を送られるように、授業を工夫した。	子供達が楽しんで学校生活を送られるように、授業を工夫した。	3	・より良い授業を作るために校内研修を充実させる。 ・宮川小の教科担任制を推進させる。 ・学校に寄せて頂いたときに、教室の雰囲気を見学する限り、しっかりと取り組まれていると見受けられる。
		体づくり・体力向上推進	朝の会で宮川体操に継続的に取り組むことや宮川スポーツタイムにおいて全校でなわとりに取り組んだ。	朝の会で宮川体操に継続的に取り組むことや宮川スポーツタイムにおいて全校でなわとりに取り組んだ。	3.2	・朝の会の宮川体操は今後も継続して取り組む。宮川スポーツタイムは、冬季の体作りに一役買っている。児童の学習用パソコンで個人の運動履歴を取り続けることで、運動の日常化を目指している。 ・体育の授業とは味わえない種目で体力づくりを楽しんでいただきたい。体力づくり種目の中に生きている”団結力”も生かしていただきたい。
		すんであいさつをする	高学年による挨拶運動を学校の伝統的な取り組みとして行っている。	高学年による挨拶運動を学校の伝統的な取り組みとして行っている。	4	・地域の方とも一緒に取り組んでいる伝統になりつつ活動です。 ・朝の挨拶運動で、元気づけ挨拶している姿を見ている。また、学校内でも大きな声であいさつしてくれる子供が多く感じます。 ・男子6年生の一人が、帽子をとってあいさつする子がいる。あげたら、 ・コロナの時期を経たからか、それ以前と比べると、少しあいさつは少なくなっているように感じます。 ・この運動は高学年につれて自主的なあいさつが下級生に強いては親にも良い影響を与えるよう、今後も継続をお願いしたい。
	あへれば研修記目録が	表現する力をつける「話す、聞く、書く」	各学期に1回ずつの代表授業を行うとともに、さらにより良い授業になるように、全体研修で授業改善について話し合った。	各学期に1回ずつの代表授業を行うとともに、さらにより良い授業になるように、全体研修で授業改善について話し合った。	3	相手(自分以外)へ正しく自分が考えたことを伝えることができるのかを考えた授業づくりに取り組んだ。 話す:順序立てて話をするに慣れていないので、最初は単語の羅列でしかなかった話し方が、モデルを利用することで話が相手に伝わりやすいことを知り、徐々に慣れていった。 聞く:メモを取りながら聞くことで要点を逃さず聞くことに慣れていった。聞く→聴く→訊くを目指した訊き方に取り組んだ。 書く:要点を捉えた書き方をお互いに見比べることで、より良い表現を見つけていくことができた。 来年度は学年ごとの系統性を大事にして、取り組んでいく。
安全・地域と共に取り組める心豊かな学校づくり	①いじめ防止基本方針に基づきいじめ防止対策に関する取組(いじめ問題対策委員会)	事案発生時に迅速に委員会を開き情報を共有し指導方針を確認している。	事案発生時に迅速に委員会を開き情報を共有し指導方針を確認している。	・毎学期に行っているいじめに関するアンケートでは、児童一人一人からの意見を吸い上げる場として、大切に扱っている。意見の中から迅速に対応が必要なものは、生徒指導係、管理職とともに情報を共有して、事態の未然防止の一助としている。 ・普通の職場環境の風通しの良さが、事案発生時に情報共有に寄与すると聞きます。時間があれば他校の事案も研究できれば、訓練ではないが、対策方法の方向性が導きやすいと思う。また、学校職員含め、学校関係者(保護者他)も、いじめ防止対策推進法13条を理解することが、学校の負担を軽減する助けにならないかと思う。	4	
	②超過勤務時間の削減・効果的な有給休暇の取得	「すぐる」のアンケート機能を活用し行事や教育活動に関する保護者アンケートを実施した。留守番電話の6時半以降の活用している。	「すぐる」のアンケート機能を活用し行事や教育活動に関する保護者アンケートを実施した。留守番電話の6時半以降の活用している。	・紙面印刷を取りやめ、すぐるでの配布を多用している。保護者への学校評価アンケートは、すぐるのアンケート機能を利用している。 ・神戸市の教職員人数を増やさなければ、小学校に限らず、負担のしわ寄せ(今まで無に負担増)が何方かに行き見込みがある。この目標達成時、失っていたものが多か、今まで不要だった作業や事業が見直されたか興味がある。	4	
	③感染症対策関連	毎日の健康チェック・黙食の実施・うがい手洗い等の普段の健康に関することについて。	毎日の健康チェック・黙食の実施・うがい手洗い等の普段の健康に関することについて。	・コロナが5類に移行した頃から、インフルエンザが流行してしまっ。大人も子供も少し油断してしまっていたのかなあと思 います。 ・コロナ禍で身についた手洗いという習慣は継続していただきたい。	3	
	④「すぐる」の活用、ホームページにおける情報発信	学校評価アンケート、授業や校外学習の様子をお知らせした。	学校評価アンケート、授業や校外学習の様子をお知らせした。	・リアルタイムに情報がわかり、助かっています。 ・宮川小学校はじめ、長田区小学校は近年ホームページの更新が頻繁に行われ良い。「すぐる」の活用は、現学運営に欠かせないツールであれば、それを保護者に理解していただければ、アンケート初回答率も少しは改善できると思います。	4	
	⑤登下校時の見守り運動(PTA・青少協など)	定期的に放課後に巡視を行っている。	定期的に放課後に巡視を行っている。	・まだまだ声かけ事案など、子供が被害に遭う事件があります。地域と共に、やはり顔を知っている先生の巡回は子供たちにとっても安心。 ・下校時に広がって歩いたり、ななめ横断したりするのを見かけます。 ・見守り隊の方々には感謝しております。	4	
	⑥学校生活のルールや決まり(校則など)について	学校のきまりや校則については、年度当初に子供たち一斉に指導し、年度末に見直しと点検を行う。	学校のきまりや校則については、年度当初に子供たち一斉に指導し、年度末に見直しと点検を行う。	・守るべきことと変えていかないといけないこと、これからは時代と共に短期での見直しも必要となってくると思います。 ・今、校則が時代に合わせて改則の傾向があるが、声の大きさに負けて、理不尽な改則は絶対に行わないでほしい。	4	
	⑦学力の向上、体力の向上についての取組み	職員研修のテーマを「楽しんで運動する子の育成」とし、体育授業の技術向上ならびに宮川体操、宮川スポーツクラブで体力向上を図った。	職員研修のテーマを「楽しんで運動する子の育成」とし、体育授業の技術向上ならびに宮川体操、宮川スポーツクラブで体力向上を図った。	・もりもりクラブ(卓球)で、昨年6年生が5人いたが今年はいない。指導者(上手な人)がいけない。例えば、彩星工科高校と連携できないか。(近くに高校がたくさんあります) ・競い合いも必要だが、“楽しみ”に重点を置くニュースポーツ等気軽に楽しめるスポーツもあることを体験させてあげたい。	3.5	
人がつながりともに創るみんなの学校づくり	学校評議員会との取組みの違い	今後、学校運営協議委員会をより活性化していただくため、委員がそれぞれの立場から学校運営に参画できるよう、積極的に意見を出し合う場にする。	今後、学校運営協議委員会をより活性化していただくため、委員がそれぞれの立場から学校運営に参画できるよう、積極的に意見を出し合う場にする。	・現在の教育の状況は、学校からの情報しかない。子供の成長過程においては、今も昔も関係なく、人として何が大切かを教えていかないといけない。ただ、今の時代に思うのは、子供たちが自分で判断し、いろいろなことを経験して自立する、もっと言えば、責任感のある子供への成長を促したい。 ・委員が個々に感じたことを話し合い、学校へお伝えできる場を作っておく。 ・今年も成果が大きい。 ・囲碁将棋ができる老人がいる。ミーティングルームを使用できるとエレベーターが必要ですが、使用できるでしょうか。 ・「地域と共にある学校づくり」「学校を核とした地域づくり」このコンセプトを具現化するために、委員の方々には普段のコミュニケーションの中で、常に考えるようお願いしたい。	3.7	
	育てたい子供の姿の共有	第1回の会議で、学校経営方針、宮川小教育の課題などについて説明し、意見交換を行った。	第1回の会議で、学校経営方針、宮川小教育の課題などについて説明し、意見交換を行った。	・「昔は～」とか「以前は～」とかではなく、現況を受け入れる柔軟な頭の切り替えが大切だと思います。 ・生徒も参加できるとよい。 ・会議にはせめてお一人は児童の保護者出席が望ましい。	3.5	
	親しみやすい学校づくり	コロナ禍であるため、ここ数年地域との活動ができなかったが、今年、地域の方々に協力いただき、「宮川親子防災デー」(防災学習)を行った。今後も、地域・家庭・学校が協働してできる行事や取組を進めていく。	コロナ禍であるため、ここ数年地域との活動ができなかったが、今年、地域の方々に協力いただき、「宮川親子防災デー」(防災学習)を行った。今後も、地域・家庭・学校が協働してできる行事や取組を進めていく。	・地域の者にとって、学校へ伺ったときに笑顔で迎えてもらえることはとても嬉しいことです。人間関係大切。 ・防災デーでの地域の関わり方は、親しみやすい学校づくりより、地域が子供を育てるための協力活動の様に思っています。協力活動だけでなく、見守り時間が取れたら良いように思います。 ・防災デーの炊き出しの豚汁を配った。積極的にお手伝いする保護者がたくさんいたのは良かった。PTAという形ではなく、保護者が地域との関わり、繋がりを広げることが難しくなっている。 ・「宮川親子防災デー」は、子供たち、地域のためにも継続したいが、各団体横の繋がりの連絡(情報共有)をもっとスムーズにする体制が必要と思われる。	3.3	
子供を育てる活動	長田商店街や長田神社、ふれあいのまちづくり協議会が主催での地域のまわりや行事が催されている。その中で、子供たちの作品を出品したり、参加できる体制を作ってくれたり、協力体制ができている。	長田商店街や長田神社、ふれあいのまちづくり協議会が主催での地域のまわりや行事が催されている。その中で、子供たちの作品を出品したり、参加できる体制を作ってくれたり、協力体制ができている。	・田植えや稲刈りの後に、生徒の皆さんから頂くお礼状は、とてもよく書けていて、心が温かくなります。 ・夏祭りの灯籠の絵、提灯など、地域との協力体制ができているのを感じています。 ・(長田神社前商店街の立場として)長年、行政・地域の方々の協力を得て長田神社行事を中心に企画運営をさせて頂いていますが、マンネリ化している感がある。今の親世代が子供たちに、何を知ってもらい、こう成長してもらいたいというのが掴みにくくなっている。もっと多くの保護者との情報交換が必要と感じている。	3.3		